

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度社会教育委員会	
開 催 日 時	平成27年6月25日（木）15:30～17:00	
開 催 場 所	宍粟市役所 4階 401・402会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	当日選考により 委員長：宗平 圭司	
委 員 氏 名	(出席者) 宗平圭司・宮脇昭介・中村美代子・大前千里 船積攝子・山木康子・小池正明・田住学 赤松茂範・宮元裕祐・福岡久蔵・板東亨 清水兼男	(欠席者) 志水修
事 務 局 氏 名	西岡教育長、藤原部長 (社会教育課) 田路課長、大谷、大砂、亀井、清水、原	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="radio"/> 公開 <input type="radio"/> 非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) ・感謝状の贈呈 ・委嘱書の交付 ・委員長（宗平圭司）、副委員長（中村美代子）の選任	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	会議次第、宍粟市社会教育振興計画、宍粟の教育	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員	<p>報告及び協議事項 社会教育課組織、宍粟の教育、社会教育課事務事業評価[25年度まとめ] 主要施策・事業の説明（課長、各担当者）</p> <p>・子ども会の活動は自治会メインの活動範囲となっており、地域づくりなどに熱心に取り組んでいる。子ども会の活動費は、全て保護者負担をしているのが現状である。行政が計画した事業については予算化もされ参加要請があるのに、単位子ども会の事業については市の協力や支援がない。単位子ども会の活動についても支援をしてもらえないのか今後の課題として検討いただきたい。</p>
事務局	<p>・行政としては単位子ども会までの支援は難しいところがある。今いただいた意見を参考として、今後、どのような形での支援なりお手伝いができるか考えていきたい。</p>
委員	<p>・子ども会の一番大きな事業は夏に開催される球技大会であり、市の予算はほぼそれに使い切ってしまう。今年度、このような自主事業をしたいと思って計画しても予算が付くのは来年度以降になり、その頃には役員も替わってしまう。今後、もう少し融通の利く事業の発展や展開の仕方を考えていただきたい。</p>
事務局	<p>・ありがとうございます。参考とさせていただきます。</p>
委員	<p>・芸術文化奨励金やスポーツ奨励金は人材育成のために交付するとあるが、何件ぐらいの実績があるのか。また、どういう人に出すかなどの交付基準はあるのか。</p>
事務局	<p>・26年度において芸術文化奨励金は2名に交付し、個人での申請のため10,000円の2名分で合計20,000円の実績となっています。交付基準は、全国レベルの展覧会で優秀な成績を収めた人となっています。スポーツ奨励金については、今は実績の把握をしていません。</p>
委員	<p>・昨年度から65歳以上の方がスポーツ施設を使う場合、無料となっているが学遊館のアイビードームを65歳以上の方が使う場合も無料になるのか。</p>
事務局	<p>・はい。無料となります。</p>
委員	<p>・宍粟学講座は夜7時からの開催か。</p>
事務局	<p>・25年度に初めて宍粟学講座を実施した時には、夜7時の開催としていたが、昨年度からは土曜日の昼からの開催となっています。</p>
委員	<p>・昨年度子どもが産まれた数は、千種7人、波賀10人、一宮38人、山崎185</p>

事務局	<p>人で、すごい勢いで人口減少している。それはどういうことかということと宍粟市で子育てしていない。宍粟市で子育てしようとしてのIターン、Uターン、Jターンが全然ない。社会教育として、「宍粟市でこんな子育てをしてください」、「このような社会教育があるから子育てをする環境が整っている」ということをPRしていけばいいと思うが、どのようなものがあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設利用における中学生以下の使用料免除についても、子育て支援（環境整備）の一環に入ると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の会議に出席して思うのは、縦割り行政で「どこかがするだろう」という感じで横のつながりがみえない。だから、社会教育課独自で子育て支援や、宍粟市で子育てをするメリットはこういうところがあるということを出しような取組を進めてほしい。また、社会教育の予算をみても子どもの予算より高齢者の方が多く使われているので、今後バランスを考えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室など子ども向けの事業も実施している。いろんな講座を含めて文化があふれるという観点から宍粟市の魅力を発信し定住化を進めていきたいと考えている。そのようなことから市長も社会教育を重要視されており、まだまだ開拓できる分野があるのではないかと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が4年前に宍粟市に引っ越してきた時の人口は41,000人だったが、今は38,000人くらいまで人口が減ってきている。山崎町の市街地はそれほどでもないが私が住んでいる地域では相当減ってきており限界集落で、もう間もなくすれば一部の地域では極限集落になってしまう。若い人はみんな出て行ってしまい、都会から人をよぼうとした場合、まず考えるのは子育てであり、学校であり、幼稚園である。 <p>しかし、一方では学校規模適正化で統廃合を進めている。統廃合され学校が無くなった地域はますます高齢化が進み過疎化が進む。そのことは全国的な事例で実証済みである。子育ての問題と学校規模適正化という部分で一度決まった問題をそのまま進めるのではなく、規模適正化とまちづくりの両面について教育委員会でも議論されてもいいかと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・連合PTAの総会で、山崎町連合PTAからPTA組織を市で一本化してはどうかとの意見があがり、昨日開催した理事会で他三町の意見を聞かせてもらった。一宮では学校規模適正化が進んでいる中で、同時にPTA組織のあり方も変えていくというのは難しい。いずれはそういう形になるかも知れないが、早急には無理であるとの回答だった。 <p>若い人が子育てをしていく環境、子ども会の予算や動きについて先ほどもいろんな意見があったが、結局はPTAの役員の負担が多ければ多いほど子育てもしにくくなる。</p> <p>適正化により土万小学校は無くなった。統廃合して動きやすくなっているのならいいがそうではない。PTAだけではどうしようもできない。子ども会やPTA、予算のことなど今まであったものをそのまま受け継ぐのではなく、状況</p>

	<p>(環境) は変化しているのでみなさんの知恵をお借りしてより良いものにしていただきたい。</p>
委員	<p>・日本は平成の大合併を進めてきたが、失敗（欠点）が多かったと言われている。フランスやドイツは、小さなまちでも町村合併をしていないところが多くある。表面上の合理化だけで中身はマイナスが多くできてきているように感じる。行政に携わる人は、そういう思いも持っていて欲しい。</p>
事務局	<p>・最後に「中播磨・西播磨地区社会教育連絡協議会合同研修会」の参加依頼をして閉会とする。</p>